

平成28年度 地域ケアプラザ事業計画書

1 施設名

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

2 事業計画

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのようにおこなっていくのか、具体的に記載してください。

地域の現状と課題について

青葉台連合自治会・青葉台地区福祉協議会のエリアを青葉台地域ケアプラザと当ケアプラザが協力して地域の課題等について共有している。

この地域は、以前から自治会や社会福祉協議会、民生委員児童委員、老人会など様々な団体が活発に行われており、共通する活動については2つのケアプラザが日頃から連携を取り情報共有を行っている。特に地域福祉保健計画地区別計画の推進では、3ヶ月に1回支えあいネットワークを開催し、地域の代表者や行政と共に、情報共有と課題解決に向けての活動を行っている。また、地域の様々な行事に参加し顔の見える関係作りにも努めている。

担当エリアの高齢化率は平成27年9月30日現在18.8%となっている。高齢化が年々進んでいくエリアのため、介護予防や閉じこもり防止などに役立つプログラムをケアプラザ内で開催すると共に、地域にも出向いて活動を行っている。また、このエリアには小学校が2校、中学校が1校と児童数も他のエリアよりも多い。将来に向けて、学校との連携も活発に行うと共に、地域に住む子育て中の親や未就学児童を対象にした活動も行い、次世代に向けての継承者を育てていく。デイサービスなど高齢者向けの施設であるという印象が地域に定着しがちであるが、ファミリー層や子供たちにも目を向け参加できる場づくりと全世代の為の地域の活動の場である事を継続的に地域にアピールしていく事が出来る仕組みを構築していく。

今年度の重点目標

今年度からスタートした第3期地域福祉保健計画の区計画及び地区計画を推進していくために、地域包括支援センター3職種、地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターが連携を取り第2層レベルでの課題の抽出・分析と、第1層の青葉区役所や青葉区社会福祉協議会との連携により、地域包括システム構築を実現していく。

支えあいネットワークを3か月に1回会議を開催し、昨年度から引き続き、地域レベルの活動の場と担い手の発掘と活動の場が提供できるボランティア登録システムを作っていく。

また、次世代の担い手を育成し地域で見守りが出来る地域ケアシステムの構築に向けて、昨年度に続けて小中学校との連携により認知症サポーター養成講座を開催していく。

包括的継続的ケアマネジメントでは、地域の介護保険事業所や医療機関・薬局などへの定期的な訪問や、地域ケア会議や包括カンファレンスなどの会議の開催には、地域で活動を行っている自治会・民生委員などに広く呼びかけ、会議への参加による共通課題の理解と連携の強化を図る。

ケアプラザで開催する各種講座では、妊産婦～子育て世代の家庭から高齢者まで幅の広い層に活動を行い、未就園児はもとより地域の幼児、児童の来館数を増やし、地域に住む人たちへのケアプラザの周知を図る。

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

基本協定書に基づき、指定管理者として適切な建物及び設備の維持管理を行う。開所から16年経過し耐用年数を超えたものなどか出始めているため、施設を利用される方たちへの安全の確保は不可欠である。専門業者による定期的な点検により設備を長持ちさせるように努めていく。

また、職員による日々の点検・清掃を行い屋内外の良好な環境を維持し、利用する方々が気持ちよく安全・安心・清潔な施設を利用していただけのように保守管理を行っていく。内部だけでなく、外から見ても不快感を与えることのないように、植木の手入れや雑草取り、落ち葉・枯葉の清掃もまめに行う。

イ 効率的な運営への取組について

法人の基本理念に則り、公益性・公共性を重視した運営と、地域包括ケアシステムの推進の為に、行政機関・医療機関・薬局・介護保険事業所などや自治会・地域住民・ご利用者及びその家族など関係者と連携をとり、質の高いサービスを提供していく。ゴミ処理については、徹底したゴミの分別やリサイクルを行う。また、節電・節水など省エネに努め、ムリ・ムダ・ムラのない効率的な運営を行う。

業務については、見直しを効率の良い勤務体制を作っていく。また、ボランティアの発掘と育成に努め、継続した活動ができるように協力や提言を行う。

ウ 苦情受付体制について

当法人作成の「苦情対応マニュアル」を基に、苦情相談窓口の文書を玄関に掲示し、その中に責任者名・担当者名・第三者委員名を明記するほか、横浜市の「ご意見ダイヤル」のポスターを貼り出すなど、意見が言いやすい環境づくりを心がける。些細な苦情といえども、迅速で適切な対応を誠意をもって行う。

介護保険事業については、重要事項説明書に担当者名を記載するとともに、区役所と神奈川県国民健康保険団体連合の所在地と電話番号を記載し、公的機関に対しても苦情申出等ができることを説明する。

ご意見箱を事務所から離れた所に設置することで、匿名希望の方からの意見も聞きやすい環境にする。

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

当法人作成の「緊急時対応マニュアル」を基に、適切な対応を行う。

防犯対策として、夜間の時間帯は必ず2名の職員が勤務し、閉館時は警備会社による機械警備を行う。またパソコンにはすべてセキュリティーキーをつけ、盗難に備える。またパスワードの設定を徹底するなどの対策を怠らないようにする。

防災対策として、避難訓練を2か月に1回デイサービスの利用者に加え、貸館の利用者にも参加してもらい、火災の場合の避難や地震の時の対応などを行う。また、防災拠点や自治会の防災訓練にも積極的に参加する。特別避難場所に指定されている施設として、応急備蓄品の適正な管理を行い、緊急連絡網による連絡体制を徹底させる。

オ 事故防止への取組について

当法人作成の「事故対応マニュアル」の周知と研修の実施により、事故を起こさないよう常に注意を呼びかけ、また事故が起きてしまった場合には、速やかに対応し、青葉区役所や横浜市への報告も行う。

ヒヤリハットが起きた時には、全員の共通課題として取り組み、原因についての検証と今後の改善策を話し合う。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

年度初めには、常勤・非常勤を問わず、職員全員に対し個人情報保護に関する研修を行い「個人情報保護に関する誓約書」に署名をもらい、横浜市長に提出する。中途採用の職員も同様に、その都度行うとともに、常に緊張感を持って個人情報に接するよう注意を促す。

法人としても法人内研修で個人情報保護に関する研修を行いケアプラザのみでなく法人として個人情報保護に心がけていく。

「個人情報取扱規程」の基づき、漏洩防止・保護に努める。

個人情報保護方針・個人情報問い合わせ担当者などを決めて、玄関に掲示する。

キ 情報公開への取組について

法人のホームページとブログを有効に活用するとともに、今年度より広報紙を毎月発行に切り替え、自治会へ回覧すると共にケアプラザ内での広報活動、区役所や青葉区社会福祉協議会に設置されているケアプラザ用チラシも活用し地域に情報提供を行うほか、区報への情報掲載、横浜市や青葉区などの公的機関のホームページの活用や、介護サービス情報の公表を更新するなど、地域の多くの方にケアプラザを知っていただこう広報活動に努める。

事業計画書・事業報告書・予算書・決算書などを、いつでも誰でも見られるようにファイルして、受付カウンターの横に置いておく。

一法人としてではなく、公的機関の一員であるという責任の重さを自覚して、情報公開の取り組みを行う。

ク 人権啓発への取組について

人権とは、地域住民すべてが、住み慣れた地域社会において幸福な生活が営めるように人間として当然に持っている固有の権利である。人権啓発に関係する研修に参加すると共に、地域に啓発活動を行うために、虐待や消費者被害について、包括カンファレンスや地域の老人会サロンで啓蒙活動を行っていく。

また、エンディングノートについても、地域住民を対象に講座などを開催していく。

ケ 環境等への配慮及び取組について

節電・節水等を職員一人一人が心がけるようにする。

エアコンの設定温度は、夏は28度、冬は20度を目安にし、照明も明るさをそれほど必要としない場所の蛍光灯は数を間引くなど節電を実行する。また、館内に、節電を呼びかけるチラシを掲示し、利用者にも趣旨を理解していただき協力をお願いする。26年度に災害用の非常電源の確保事業で屋上に太陽光蓄電池が設置された。微量であるが非常用逐電装置からでた電気を動力系統で活用し、建物全体の電気量の軽減も役立てていく。

ごみの分別については、公共施設としてのゴミのルート回収に参加し、分別の徹底（紙類・燃やすごみ・金属・プラスチック・ペットボトル等21種類に分類）や減量化、リサイクルの促進に努める。ペットボトルのキャップやプリンターのカートリッジは回収ボックスへ、牛乳パック・空き缶・ペットボトルなどはデイサービスで行うゲームや工作の材料として使用するよう工夫する。

印刷物の裏紙は、積極的に所内容プリント用紙やメモ用紙として活用ゴミの軽減化に努めると共に、パソコンプリンタートナーも、リサイクルトナーを使用するようにしている。

介護保険事業

● 介護予防支援事業

《職員体制》

管理者	1名（常勤 兼務）
保健師	1名（常勤 専従）
社会福祉士	1名（常勤 専従）
主任ケアマネジャー	1名（常勤 兼務）
プランナー	1名（非常勤 専従）

《目標》

担当地域内に居住するよう支援1・2の認定を受けて利用者に対し、可能な限り、住み慣れた地域で安心して生活が送れるようにするために必要な介護サービスが適切に提供できるように、利用者の選択に基づいた自立支援のための介護予防サービスや支援計画を作成する。また、地域のケアマネジャー事業所に委託予防プランを受け入れてもらうことにより、ケアマネジャーの支援を行っていく。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

-
-
-

《その他（特徴的な取組、PR等）》

《利用者目標》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
90	90	90	90	90	90
10月	11月	12月	1月	2月	3月
90	90	90	90	90	90

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤兼務）
 介護支援専門員 6名（常勤専従 3名）
 （非常勤専従 3名）

《目標》

特定事業所加算Ⅱの事業所として、計画的な研修の実施および介護支援専門員1人ひとりの個別研修計画を作成し、ケアマネジメント技術を向上することにより、ご利用者とご家族が、安心して自立した在宅生活を送る事ができるよう支援する。

また、24時間の相談連絡体制を確保し、週1回のカンファレンスを行い、支援困難ケースについても積極的に受け入れていく。

- （1）利用者の意思および人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、提供されるサービスが特定の種類・事業所に偏らないよう公平中立な立場で支援を行う。
- （2）利用者の能力に応じ、自立した生活を維持するために適切なサービスが受けられるよう、心身の状況や環境、家族、介護者の希望を考慮し、要介護状態の悪化防止となるようなケアプランを作成する。
- （3）利用者宅を定期的に訪問し、サービス内容についてモニタリングを行い、サービスの実施状況の把握、サービス調整の必要性について確認を行う。
- （4）初任者の実習受け入れの依頼を受けた場合は、地域包括支援センターと協力し積極的に受け入れていく。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

-
-
-

《その他（特徴的な取組、PR等）》

地域包括支援センターを有する地域ケアプラザに所属する居宅介護支援事業所として、公平中立な立場でケアマネジメントを行うと共に、地域ケア会議等への参加と協力を行う。

また、契約の有無にかかわらず広く相談を受け、介護保険に関する事項や横浜市の行政サービス、地域の社会資源などの情報提供を積極的に行う。

《利用者目標》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
147	147	147	147	147	147
10月	11月	12月	1月	2月	3月
147	147	147	147	147	147

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 送迎
- 健康状態の観察
- 昼食 おやつ
- 生活指導 相談
- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

●	1割負担分	2割負担分
(要介護1)	692円	1,383円
(要介護2)	817円	1,634円
(要介護3)	947円	1,894円
(要介護4)	1,077円	2,153円
(要介護5)	1,206円	2,412円
	別途（入浴 サービス提供体制強化加算Ⅱ 処遇改善加算Ⅰ）	
●食費負担	750円	

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9 : 30 ~ 16 : 30 （半角で入力 例 9 : 00~15 : 00）

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務）
生活相談員	2名（常勤兼務）
看護師 機能訓練指導員	3名（常勤3名）
介護職員	14名（常勤兼務4名 非常勤10名）
調理員	6名（常勤兼務1名 非常勤5名）
運転手	5名（非常勤5名）

《目標》

通所介護計画書に沿って、個人の目標現実・ADL・IADL 現実維持に向けた際ビ
 スを提供する。また、機能訓練指導員の個別リハビリを強化する。
 医療面のリスクの高いご利用者様をお受け出来る様に、研修などに積極的に参加
 する。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

入浴されない方への足浴を行い、足（爪・水虫等）の観察を行う。

《利用者目標（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
800	800	800	800	800	800
10月	11月	12月	1月	2月	3月
800	800	700	700	700	700

● 介護予防通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 送迎
- 健康状態の観察
- 昼食 おやつ
- 生活指導 相談
- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分 2割負担分
 - (要支援1) 1,766円 3,513円
 - (要支援2) 3,621円 7,241円
- 別途（サービス提供体制強化加算Ⅱ 処遇改善加算Ⅰ）
- 食費負担 750円

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9 : 30 ~ 16 : 30 （半角で入力 例 9 : 00 ~ 15 : 00）

《職員体制》

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 生活相談員 2名（常勤兼務）
- 看護師 機能訓練指導員 3名（常勤3名）
- 介護職員 14名（常勤兼務4名 非常勤10名）
- 調理員 6名（常勤兼務1名 非常勤5名）
- 運転手 5名

《目標》

介護予防通所介護計画書に沿って、個人の目標現実に向けたサービスを提供する。
ADL・IADLの維持に努める。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

ホットパックを使用し、筋肉の動きを和らげ全身の機能を向上させ転倒予防、筋力維持に努める。

《利用者目標（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
20	20	20	20	20	20
10月	11月	12月	1月	2月	3月
20	20	20	20	20	20

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

地域ケアプラザ

1 総合相談（高齢者・こども・障害分野への対応）

[高齢者]

包括3職種が区役所と連携をとり、どのような相談にも継続して対応できるよう、分科会や連絡会、包括カンファレンス、その他研修会などへ参加し、スキルアップを図る。また、虐待や成年後見人、認知症などの周知や啓発活動も積極的に行う。

[こども]

子育て支援拠点「ラフル」との連携を図り、相談には適切な機関につなげられるようにする。

[障害者]

地域活動ホーム「ステップ」や青葉区精神障害者生活支援センター「ほっとサロン青葉」と連携し、速やかに関係機関につなげるようにする。

障害者のいる高齢世帯は、困難ケースになりやすいので、区とも連携をとり問題が拡大する前に、早期介入、早期支援に臨めるようにする。

2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携

地域活動交流部門と地域包括支援センターが協力し、老人会や地域の会合などにも参加し、地域のニーズや課題を見つける。

また高齢者にのみならず、近隣の学校や幼保などの児童に向けた講座開設やケアプラザとの交流企画を提案実施することで、次世代の福祉活動への担い手育成を目指す。

月1回の包括カンファレンス・包括会議に地域活動交流部門も参加し、それぞれの分科会で話われた内容や情報の共有をしていく。また、地域ケア会議を定期的開催し、地域のニーズや課題の把握に努める。各種講座についても、4職種が協力して企画を立て、地域の方々が興味のある講座や教室を行う。

地域包括支援センターの3職種と地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターを加えた5職種の体制を常に念頭に置いた活動を行う。

3 職員体制・育成

地域包括支援センター部門・地域活動交流部門・通所介護部門・居宅介護支援部門とも、それぞれの基準に則り、資格及び人員を配置する。

職員の育成は一人一人がプロとして自信をもって職務を遂行できるように、常勤非常勤を問わず、外部研修に積極的に参加させ、個人のレベルアップを図る。また外部研修に参加した職員には報告を義務付け、所内研修での情報の共有化を図る。特に新任の職員には、すぐ実践で役立つ基礎知識や実務に関する外部研修を受講させる。

毎月行われる法人内研修にも、積極的に参加する。

4 地域福祉のネットワーク構築

青葉台地区社会福祉協議会理事会や青葉台地区推進会議に積極的に出席するとともに、活動にも積極的に参加する。また、各団体の行事（地区社協の福祉まつり、自治会の夏まつり、中学校の福祉教育体験学習、小学校の福祉体験、防災拠点や自治会の防災訓練など）にも参加し地域との協力体制をとる。

青葉台地区支えあいネットワークでは、青葉台地区福祉保健計画にリンクした活動を推進するために、青葉台地域ケアプラザと共同開催し、地域の施設のニーズをリサーチすると同時に、人材を掘り起こすことを目標に「ちょいボラ」育成を活動に取り組む。その活動の中で施設とボランティアをマッチングさせて、それぞれが抱えている問題の解決に結びつくような継続活動を行う。

5 区行政との協働

地域福祉保健計画の、地区別計画にも掲げられている「地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成」に力を入れ取り組む。

青葉台地区支えあいネットワークは昨年度に引き続き、エリア内の福祉施設、自治体、近隣公立校のニーズリサーチを行い、ネットワーク便りを地域に回覧し、ボランティアの需要にあった人材発掘からマッチングまでの活動を継続し展開する。また、ケアプラザで既に活動しているボランティアや定年退職した男性グループ（いきいきセミナーOBの5グループ）の支援も行う。

区との協働では、第3期地域福祉保健計画に関連した会議や研修に積極的に参加し計画推進に向けての情報共有を行うと共に、高齢・障害支援課の事業「介護予防普及強積極的に化業務」「元気づくりステーション」、子ども家庭支援課の「育児教室」等を実施及び支援する。また、保健推進課による歯磨き指導なども積極的に取り入れ。地域の子供や保護者に有効な知識の啓蒙や交流の機会を積極的に設ける。

地域活動交流部門

1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

地域の連合自治会、学校などの社会資源を把握し、諸活動への参画、定期的な情報交換を努める。今年度は小中学校コーディネーターとの横の繋がりも深め双方の情報交換を行いたい。

閲覧コーナーに「利用団体活動紹介」ファイルを置き、各募集要項に応じた新規人材獲得が随時できるような工夫を行う。

年間を通じて会報誌「ひろば」と「miniひろば」を刊行し、毎月タイムリーな事業の予定と活動の内容を周知し、地域の理解や興味を深める。同時にケアプラザの活動や介護・福祉の動向も啓蒙する。今年度は協力医の「健康コラム」増し刊、会報誌の存在PRを強化することで周知の輪を拡げる。

区報も毎月利用し「さつきが丘地域ケアプラザ」の情報提供を行う。

ブログ更新もリアルタイムに行い、各団体の活動の様子から理解や興味を深める。

各団体やケアプラザの行事の際には無料掲載新聞の取材も心がけ、団体や人物の紹介から活動に共感できる人材確保へ拡げる工夫も行う。

学校用の「学校ひろば」を長期休暇前に発行し、情報の提供を行う

2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

空き状況を常に更新し、最新情報を見やすく掲示する。また電話での空き状況の問合せに丁寧に応じる。

自主活動団体の課外活動や多様な企画の提案で、他の団体や講座開設も有効に行い。貸館全般の稼働率を無理なくあげる工夫を継続して行う。

昨年27年度より稼働率は上昇傾向にあるが、引き続き土・日・祝日や夜間帯の貸館の稼働率が保てる工夫を行う。

3 自主企画事業

地域のニーズを把握し、地域福祉のために新たな取り組みを行う。

高齢者の生きがいや健康、認知症予防に重点をおき仲間づくりにもつながる講座開設。未就園のお子様を持つお母さんとその子供の居場所づくり、小中学生が集える食育講座をはじめとする多くの取り組み、障がい児活動支援を継続して行う。

多世代交流を深め近所づきあいを活性化できるような顔の見える関係づくりの切欠になる講座を継続しておこなっていく。

青葉区社協、日本赤十字社との共催において防災や救命に備える資格取得講座も開設する。

区やラフルとの話し合いの中で子育て支援につながる「歯科衛生」や「子育てサポート」など連携した講座の展開を図る

包括との連携で小中学校はもとより、地域に向けた「認知症」「ボランティア育成」の講座を定期的の開講する。

4 ボランティアの育成及びコーディネート

毎年「いきいきセミナー」をケアプラザと自主事業団体との共催で準備から開催までをコーディネートするほか、年間を通じた定期的な活動に伴うボランティアへの呼びかけやコーディネート。区社協のボランティアセンターとも連携しながら、デイサービス、秋祭り、福祉まつりや子育て支援などのボランティアコーディネートも行う。

その他「支えあいネットワーク」の活動を通じて、引き続き、新規ボランティア発掘・事業所ニーズや地域ニーズとのマッチング・ボランティアの育成を継続して行う

地域包括支援センター

1 総合相談・支援

総合相談

地域の身近な相談窓口として、福祉保健にかかる個別相談を受けるとともに、各種関係機関と連携し、適切なサービスが提供できる体制を維持する。地域包括支援センター三職種が、それぞれの専門性を発揮しながら増加傾向にある総合相談に迅速に対応する。

- ①介護に関することや介護予防としての健康情報、地域の医療情報を提供する。
(介護保険申請手続き、介護保険サービス等の調整)
- ②行政サービスの相談、区への連絡調整。
- ③高齢者の権利擁護、虐待防止等の相談。
- ④地域のインフォーマルサービスの情報提供と利用調整。
- ⑤地域高齢者の実態把握と地域特性やニーズの評価。
- ⑥地域の福祉保健関係機関と連携し支援する。

地域包括支援ネットワークの構築

○包括エリアの民生児童委員とケアマネジャーの顔の見える関係づくりを行なうために、民生児童委員や、ケアマネジャー、サービス事業所を対象とした勉強会を開催し、顔の見える関係づくりを行なう。

○青葉区主催の医療と介護の連携「顔の見える関係づくり会議」と連携を図り、包括エリアにとどまらず、青葉区内全体の包括的ケアマネジメントの構築やシステムづくりを行なう。また、個別のケースの相談を通して、医療機関のMSW、地域の開業医・青葉区在宅医療連携拠点との連携も構築していく。3か月に1回程度、地域の医院・クリニック、歯科医院、薬局等をまわり、地域包括支援センターの周知や地域の情報収集、連携づくりを行なっていく。

○地域ケア会議

高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備とを同時に進めていき、地域包括ケアシステムの実現を行なうことを目的として、概ね3ヶ月に1回の頻度の個別ケース地域ケア会議の開催と年2回の包括エリア地域ケア会議の開催を地域包括支援センターが主体となり開催する。

実態把握

支えあいネットワーク、地区社協、民児協連絡会等、定期的に参加することで、地域の情報を知り、課題を共有し、状況把握をすすめる。随時個別訪問を行っていく。

包括エリアの民生児童委員とケアマネジャーの顔の見える関係づくりを行なうために、民生児童委員や、ケアマネジャー、サービス事業所を対象とした勉強会を開催し、顔の見える関係づくりを行なう。

2 権利擁護

権利擁護

○成年後見制度について

「成年後見サポートネットワーク」等を通し、各種専門職との連携を強化するとともに、地域住民への権利擁護に関する普及啓発を、サロンなどに参加し行なっていく。

○消費者被害について

増加の一途をたどる消費者被害においては、区役所、各種専門機関と連携し、多様な消費者被害に対応できるよう地域住民に対し、講座等を通じて普及啓発を行なう。高齢者を狙った悪徳商法などのタイムリーな情報提供など「ひろば」を利用し、広く予防啓発に努める。区役所、各種専門機関と連携し、多様な消費者被害に対応できるよう地域住民に対し、サロンや老人会などの場に、月1回以上の普及啓発を行なう。

高齢者虐待

高齢者虐待防止事業指針に基づき、民生児童委員、町内会・自治会・老人会、居宅介護支援事業、サービス事業所、医療機関、民間業者、行政機関等と連携し、高齢者の虐待防止、早期発見に努める。虐待に関する勉強会も引き続き実施していく。また必要に応じて区とネットワークミーティングを行い、家族支援を含めた支援の方法を共有していく。虐待の予見についても、速やかに区に報告し連携のもと継続支援ができるようにする。

認知症

認知症サポーター養成講座を年3～4回開催し、地域における認知症の正しい理解や対応の普及に努める。内2～3回は、特に若年層の認知症への理解を深めるため小中学生対象の講座とする。また、実際に介護されている介護者向けに「介護者のつどい」を年10回開催する。(内、デイサービス施設見学会を1回開催) 認知症介護者の介護疲れにより虐待に至るケースが多いことから、介護者の心のケアを行って虐待の防止に努める。

3 介護予防マネジメント

介護予防ケアマネジメント力

二次予防対象者・要支援者の主体性・意欲を引き出すような、目的志向型の包括的支援・介護予防ケアマネジメントを実施する。職場内研修も実施し、自立支援を軸にしたケアプランの作成が出来るように努める。予防プランを外部に委託する場合は、担当ケアマネジャーと連携し、適切なケアプラン作成を支援する。今年度も介護予防従事者研修を実施する。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域住民、関係機関等との連携推進支援

- 民生委員との連携をテーマにカンファレンスを開催する。
- ケアマネジメントを行う上で、顔が見える関係を構築し連携が取りやすくしていく。場を通じて、それぞれが認識している課題などを共有出来るようにし、相互理解を深めるようにする。
- 区単位で行っているサービス事業所連絡会等の定例会や、小規模多機能施設等の運営推進会議にも参加する。地域の民生委員の定例会に於いて、定期的に介護保険制度、行政サービス、地域の社会資源などについて情報提供・共有できる場を定期的に設ける。
- 年1回 区役所・民生児童委員・保健活動推進員と連携し見守り連絡会の開催を行う。

医療・介護の連携推進支援

- 医療と介護の連携をテーマとして、カンファレンスを開催する。
- 地域の薬局や訪問看護師を招いて、医療職からの事例提供を通じた勉強会を行う。
- 福祉職と医療職の視点の違いを理解し、個別支援につながるようなスキルを身に付ける事を目的としている。また、エリア内の病院・クリニック・診療所・薬局などを定期的に巡回し情報交換を行う。
- 医師会・歯科医師会・薬剤師会などとの連携を目的として、『医療連携チーム会議』が開催されている。活動や取組みを理解し、区内地域包括支援センター間の連携が密となるよう、3職種各分科会や部署内での情報交換に努める。
- 協力医と地域の介護サービス事業所が連携し、適切な支援が出来るよう、定期的に相談会を設ける。(年間4~6回)
- 適切な個別支援に繋げることが出来るよう、在宅医療連携拠点との連携をはかる。

ケアマネジャー支援

- 電話や窓口においてケアマネジャーからの相談対応を3職種が協力して行う。
- 地域の居宅介護支援事業所を訪問し、委託先事業所には、月1回以上連絡をし、相談・支援を行うようする。
- 包括エリア内で、活動するケアマネジャーのスキルアップや地域ネットワーク構築支援のため、勉強会や事例検討会を開催する。
- 担当者会議に必要に応じて参加し、開催の支援を行う。また、必要時に担当者会議の開催呼びかけを行い、会議の開催と関係機関との調整や助言等を行なう。
- 支援困難事例の相談に対応し、各専門機関や地域の関係者の連携のもとで具体的な支援内容を検討し、助言を行なう。
- ケアマネジャーが支援困難と考えているケースについて地域ケア会議を開催する。個人が抱える課題を話し合うことで自立支援に資するケアマネジメントの支援を行なう。
- 青葉区内主任ケアマネジャーが主催して、新任ケアマネジャーに対する研修・実習支援を行なう。
- 地域の介護保険サービス事業所、インフォーマルサービス情報を収集し、適切に提供していく。
- 横浜市日常生活総合支援事業の開始に伴い、地域のサービス事業所とケアマネジャーとがより一層連携がはかれるよう活動支援を行い、必要な情報を吟味し提供する。
- 地域の新入就労ケアマネジャーに対する実習や研修を区との協力により行う。
- 就労ケアマネジャーに対しては、勉強会を定期的に開催し事例検討を通して支援を行う。
- 協力医と地域の介護サービス事業所等が連携し、適切な支援に結びつける事が出来

るよう、定期的に相談会を設ける。
(年間 4～6 回)

多職種協働による地域包括支援ネットワーク

○地域住民が、住み慣れた地域で、安心して尊厳のあるその人らしい生活ができるような体制づくりを推進する。
○フォーマル・インフォーマル多様な社会資源を活用できるよう、高齢者個人に対する支援の充実に加え、社会的基盤の整備・推進を目指す。
その手法として、地域ケア会議を定期的に開催し、地域で支えるネットワーク強化を目指す。

介護予防事業

介護予防事業

地域包括支援センターの保健師が中心となり、高齢者が身近な地域で介護予防を意識できるような具体的な取り組み(元気づくりステーション・介護予防普及強化事業など)を始めるきっかけとなる機会を提供する。ケアプラザの事業に参加しにくい地域には、地域に出向き、働きかけを行なう。また、地域交流や地域包括支援センターの他職種とも情報を共有し、地域の人材(元気づくりステーションのリーダーやボランティアなど)の発掘・育成にも努める。
基本チェックリストの結果から、口腔・運動機能の該当者が多くみられることから、口腔・ロコモティブシンドロームを中心とした介護予防教室を年11回開催する。

その他

○地域の自治会や老人会、ボランティア活動などの集まりで地域包括支援センターの紹介や説明を行い、地域包括支援センターの周知に努める。また、地域の薬局や医療機関へ定期的(年4回)に訪問し、地域包括支援センターのちらしを持参し、周知・理解・連携を深める。
○3職種が専門性に関する研修に参加し、スキルアップを図る。研修後は、報告書を作成し、伝達研修を行い、研修内容の共有を行う。
分科会への参加と部内会議(月1回)での情報共有を行う。

平成28年度 自主事業収支計画書

事業名	①募集対象	自 主 事 業 予 算 額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
介護者のつどい	地域住民	12,000	12,000				12,000
	5～20名						
	0						
にこにこ茶話会	地域の高齢者	18,000	18,000				18,000
	20名						
	0						
さつき盆踊りの会	高齢者	10,000	10,000				10,000
	20名						
	0						
食事会①	高齢者	105,000		105,000		105,000	
	35名						
	1回500円						
食事会②	高齢者	105,000		105,000		105,000	
	35名						
	1回500円						
健康体操①	高齢者	0	0				
	20名						
	月500円						
健康体操②	高齢者	0	0				
	20名						
	月750円						
おしゃべりサロン	地域の高齢者	0	0				
	10名						
	0						
子育てわいわい広場	地域の親子	0	0				
	30組						
	0						
麻雀①	地域住民	0	0				
	26名						
	0						
麻雀②	地域住民	0	0				
	26名						
	0						
初心者麻雀28	地域住民	12,000	12,000				12,000
	20名						
	0						

業ごとに別紙に記載してください。

平成28年度 自主事業収支計画書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
粹生クラブ	55歳以上の男性	0	0				
	20名						
	月1000円						
いきいきグループ	55歳以上の男性	0	0				
	20名						
	3カ月3000円						
エプロンおやじ会	55歳以上の男性	0	0				
	20名						
	3カ月3000円						
食遊クラブ	55歳以上の男性	0	0				
	20名						
	3カ月3000円						
五期会	55歳以上の男性	0	0				
	20名						
	3カ月3000円						
はなみずき	高齢者	120,000	120,000			120,000	
	20名						
	1食500円						
フォークダンス	地域住民	0	0				
	20名						
	月1000円						
水墨画会	地域住民	0	0				
	10名						
	月3000円						
大人のビーズ教室	地域の方	48,341	3,341	45,000	3,341	45,000	
	15名						
	1回1000円×3回						
さつきが丘秋祭り	地域住民	400,000	100,000	300,000		400,000	
	400名						
	0						
おたすけPC隊	地域住民	120,000	0	120,000	0	120,000	
	10名						
	1回500円						
初心者麻雀28	地域住民	12,000	12,000				12,000
	20名						
	0						

業ごとに別紙に記載してください。

平成28年度 自主事業収支計画書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
古典文学を 楽しもう	地域の方	56,000	0	56,000		56,000	
	20名						
	半期1400円						
バードカービング	地域の方	40,000	0	40,000		40,000	
	10名						
	半期2000円						
フラワーアレンジ	地域の方	64,104	40,104	24,000	40,104	24,000	
	20名						
	1回1000円						
リラックスヨガ	地域の方	9,600	0	9,600			9,600
	20名						
	1回200円						
きれいヨガ	地域の方	9,600	0	9,600			9,600
	20名						
	1回200円						
子供向け食育講座	地域の子ども	36,704	16,704	16,000	16,704	16,000	
	20名						
	1回400円						
大人向け食育講座	地域住民	26,682	6,682	20,000	6,682	20,000	
	20名						
	1回500円						
つるし雑講座	地域住民	260,046	20,046	240,000	20,046	240,000	
	20名						
	1回1000円						
元気DE英会話	地域の高齢者	75,341	3,341	72,000	3,341	72,000	
	10名						
	1回300円						
親子体操	地域の親子	63,341	3,341	60,000	3,341	60,000	
	15組						
	1回500円						
背骨コンディショニング講座	地域住民	126,682	6,682	120,000	6,682	120,000	
	20名						
	8回で3000円前後期						
アロマ講座	地域住民	133,364	13,364	120,000	13,364	120,000	
	20名						
	500円～1500円						

業ごとに別紙に記載してください。

平成28年度 自主事業計画書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者のつどい	主に在宅介護介護者の交流、情報交換ができるようにする。介護者が抱え込んでいる悩みや疑問を皆で共有してリフレッシュできる雰囲気茶話会形式で目指す。	基本月1回（8月、1月休会）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
さつき盆踊りの会	盆踊りを通じて、健康維持と仲間づくりを図る	基本月1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
にこにこ茶話会	地域の高齢者を対象。介護予防、外出のきっかけを作り、見守りを目的に開催。月替わりのレクリエーションを企画して、参加者同士の交流をはかり参加中にヒアリングや様子をうかがう。	基本月1回（8月、10月休会）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
食事会①	高齢者の引きこもり防止と見守り、参加者同士やボランティア男性グループ（いきいきセミナー修了生「1期生：粋々クラブ」）との交流を目的として昼食を提供。	奇数月第2水曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
食事会②	高齢者の引きこもり防止と見守り、参加者同士やボランティア男性グループ（いきいきセミナー修了生「II期生：いきいきクラブ」）との交流を目的として昼食を提供。	奇数月第3水曜日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
健康体操①	身体機能の維持や改善を目的とする健康体操。運動不足の解消や定期的に仲間と交流することで介護予防の効果を期待する	毎月第1.3月曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康体操②	身体機能の維持や改善を目的とする健康体操。運動不足の解消や定期的に仲間と交流することで介護予防の効果を期待する	毎月第1.2.3月曜日

平成28年度 自主事業計画書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おしゃべりサロン	在宅介護者や独居老人のコミュニケーション作り。茶話会形式で行い見守りもかねる。	毎月第4土曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てわいわ広場	子育てに関する相談や情報提供、交流の場を提供することで、育児不安の解消を図る。ボランティアが活動に参加してくれることで、おしゃべりをしたり、相談を気兼ねなくできる環境を提供代交。また他人に任せて自分のリラックスを取り戻し育児疲れを解消できる時間を提供、また母子分離の切欠その自信をつける場としても活用。民生委員さんが毎回参加することで、親子の見守り、専門機関との連携につなげる。	毎月3～4回実施

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
麻雀教室① 初級～中級	引きこもり防止、脳の活性化で認知症予防につなげる。参加者同士の交流。講師にはボランティアを募りボランティア育成と活躍の場の提供も目的とする。	毎月3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
麻雀教室② 初級～中級	引きこもり防止、脳の活性化で認知症予防につなげる。参加者同士の交流。講師にはボランティアを募りボランティア育成と活躍の場の提供も目的とする。	毎月3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
初心者麻雀28	引きこもり防止、脳の活性化で認知症予防につなげる。参加者同士の交流。講師にはボランティアを募りボランティア育成と活躍の場の提供も目的とする。 卒業制度をもって未経験者を募り、2年毎に生徒を再募集することで、情報収集や地域埋もれたケースなどの掘り出しにつないだり、見守りも兼ねる。参加者やボランティアの活動の場の提供で地域活性につなげる。異世代交流とし、地域の縦割りの和を拡げる。	毎月2回 2年間で卒業

事業名	目的・内容	実施時期・回数
粹生クラブ	いきいきセミナー修了生。定年退職した男性が地域の仲間づくり、生きがい探しやボランティア活動を行う。調理実習や健康体操、施設見学など屋外での活動も行う。主に食事会①、麻雀①、デイサービス、子育てワイワイひろばでのボランティアで活躍中	毎月2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
いきいきグループ	いきいきセミナー修了生。定年退職した男性が地域の仲間づくり、生きがい探しやボランティア活動を行う。調理実習や健康体操、施設見学など屋外での活動も行う。主には地域向けの独自のセミナー開催、食事会②、麻雀②、デイサービス、子育てワイワイひろばでのボランティアで活躍中。	毎月2回

平成28年度 自主事業計画書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
エプロンおやじ会	いきいきセミナー修了生。定年退職した男性が地域の仲間づくり、生きがいつくりやボランティア活動を行う。調理実習や健康体操、施設見学など屋外での活動も行う。主には初心者麻雀、デイサービス、子育てワイワイひろば、秋祭りや地域の餅つきボランティアで活躍中。	毎月2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
食遊クラブ	いきいきセミナー修了生。定年退職した男性が地域の仲間づくり、生きがいつくりやボランティア活動を行う。調理実習や健康体操、施設見学など屋外での活動も行う。主には初心者麻雀、デイサービス、子育てワイワイひろば、福祉祭り、秋祭りボランティアで活躍中。	毎月2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
五期会	いきいきセミナー修了生。定年退職した男性が地域の仲間づくり、生きがいつくりやボランティア活動を行う。調理実習や健康体操、施設見学など屋外活動も行う。主には麻雀②、デイサービス、子育てワイワイ広場、秋祭りで活躍中	毎月2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ビーズ教室	ビーズ製作を通じ細かい手先の運動から脳の活性化をはかり、認知症の予防につなげる。また、仲間との交流を目的とする。	年1回（3回講座）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
野ばら (フォークダンス)	地域の高齢者を対象に介護予防・外出のきっかけ作り。創作やレクリエーション、発表会を通じてコミュやニケーションやりがいを見つける。	毎月2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
はなみづき	独居で支援や見守りが必要な地域の高齢者へ手作り弁当を届けることで見守り活動を行う配食サービス。作り手のボランティアのいきがいつくりと、担い手の発掘育成で地域の活性化をはかる。仲間づくりと、やりがい作り。	毎月1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
さつき墨会	経験豊富な講師を囲み、水墨画を通して交流や生きがいを見出す。	毎月2回

平成28年度 自主事業計画書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
秋祭り	地域住民とボランティア、地域ケアプラザとがともに準備をすすめながら、地域住民やボランティアと交流し、絆を深める。地域に向けてケアプラザを周知する。小中学校、自治会との懇親。	年1回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
パソコン講座	地域の中の仕事、プライベートのPC技能の個々の目的に応じたお困りごとを講師が相談にのり解決していく講座。概ねワード、エクセルを中心にテーマを向けたセミナーも組んでいる。生きがいつくりや仲間づくりも目的のひとつ。	概ね土、日いずれか毎月2回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
古典文学を楽しもう	「伊勢物語」を中心に今年は大和物語、参加者の希望に即した古典を読み進め、歴史背景、人物像に迫る。音読の機会も作り、声を出す機会もつくる。生きがいつくり、仲間づくり、認知症予防。	概ね毎月2回土曜日 前期7回前後 後期7回前後
事業名	目的・内容	実施時期・回数
バードカービング	アメリカの歴史に根付く木彫りの鳥を掘り染色する。講師を招き手法を学ぶ。手先と想像力、表現する喜びを知る。製作は隣人と助け合い、話をしながら進めていく中で仲間意識を養う。壮年から高齢者までと異世代交流になっている。	毎月1回～2回 前期7回前後 後期7回前後
事業名	目的・内容	実施時期・回数
プリザーブドフラワー	小学校高学年から高齢者まで参加可能な講座として開設。年間予定表の中で好きな時に参加できる。通年通して参加希望者もいます。小さなお子様ずれも参加でき親子の居場所づくりにもなっている。高齢者の仲間づくりにもなっている。父の日、母の日、クリスマスリース、しめ縄飾りと、年間行事や季節感をもって講座に参加できる。夏休みの親子講座も組み込まれている。	毎月1回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
リラックスヨガ	呼吸を大切に優しいヨガ教室。健康づくりと仲間づくり。	毎月2回
きれいヨガ	開講時間を夜間帯に設定。夜間帯の有効利用を狙いとして開講。内容を少しハードに設定し、若年層～壮年の取り込み、仕事かえり方のリフレッシュも狙いとする。新しい人材の発掘、地域の担い手育成につなげる意向も有。	毎月2回
子ども。親子向け食育講座	子どもや親子に向けて発信、食育や料理に親しむ。	年間2～3回
母親世代～高齢者向け食育・料理講座	専門講師やヘルスメイトとの共催で、すでにある男性調理グループや配食サービス高齢者ボランティアも含めて地域に食育や調理の輪を拡げる。	年間2～3回

平成28年度 自主事業計画書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

つるし雛講座	手先の運動と、仲間づくり、趣味や生きがいつくり。自分のペースで自分だけのつるし雛を1年かけて製作していく。仲間づくりと認知症予防。	毎月1回～2回 28年度4月～1月まで
元気DE英会話	高齢者の英会話中心の茶話会。昔の生活や記憶をたどり仲間と楽しい時間を過ごす。講師を招いて、短いセンテンスをテーマを決めて復習しスキルアップも行う。認知症予防と仲間づくり。	月2回
親子体操	未就園時をもつ親子の居場所づくり。親子のコミュニケーションが円滑に運ぶようにプログラムを組み、自分たちのペースで体を動かす。母親の日頃の体にたまった疲れを取り除くストレッチも取り入れる。仲間づくりと健康増進。育児ストレス発散。	前期4回 後期から 月1～2回
背骨コンディショニング講座	背骨コンディショニング認定の講師を招き、高齢者の健康増進、基礎体力の維持を目的とする。交流も目的。	前期8回 後期8回
アロマ講座	子どもから高齢者までの多世代向けの講座。生活に役立つ知識や利用できるものをつくる。アロマに香りに包まれたリラックスした空間とハーブティでの茶話会もあり、仲間づくりも目的とする。若年～壮年層をターゲットに地域の新しい担い手発掘にも結び付ける。	年間4回程度
サンタクロースの人形を作ろう	人形劇団の団員とサンタクロースの人形を作って、人形劇を観劇したり、作った人形を使って劇を実際に行ってみる。多世代交流。仲間づくり、子育て支援を目的とする。	年1回
読み語り講座	講師を招いて地域で読み語りに興味がある人材に基礎から講習を行う。終了後は地域で実践できるステージを設ける、ボランティア活動へとつないでいく。	前期4回講座
ハーブと生活講座	植物療法士の講師を招いて、フレッシュハーブ、ドライハーブの上手な育て方、使い方を学ぶ。高齢者と子育て世代向けに開講し、調理をする団体には実際に栽培し調理に活用してみる。子育て世代は親子でリラックスできる空間を提供して、仲間づくりや子育てとハーブについての知識の啓蒙とストレス発散につながる活動とする。	年間2回
医療連携講座	長津田総合厚生病院の医師や協力医と連携して、テーマを設定の上健康に関する講座を開設。質疑応答や茶話会形式も取り入れて地域の見えないニーズや問題の掘り起こしにもつなげる。ケアプラザの事業への理解や活動の周知も目的とする。	年間2回～3回

平成28年度 自主事業計画書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

学校連携講座	小学校・中学校コーディネーターやPTA向けのお役立ち講座「上手なチラシの表現法」「お金をかけないメディアの活用法」	年1回
区社協連携講座	日本赤十字社の講師を招いて、生活に役立つ単発講座、地域に必要な人材を育成し根付かせることも目的とした、救命法などの資格がとてる講座を開設し、地域の基盤強化、新しい人材の発掘を狙う。	年1回～2回
包括支援センターとの連携講座	元気づくりステーション「歩こう会」、「健康みそづくり」、小中学校や地域向けの「認知症サポーター養成講座」、認知症カフェ（しらとり）の立ち上げや運営	各企画通年
障がい児施設との連携活動	他、ケアプラザとの協働「余暇支援活動」や手作り作品展示や物販への協力他。地域の支援学級へ行かれない障害のあるお子さんが集う学習支援団体への読み語り講座の開設。	通年で協力できることを随時行う
夏の一コマ体操	夏休みの一定期間を解放し、毎日ラジオ体操や紙芝居、読み聞かせを行う。多世代交流、夏休みの子どもの見守りと居場所づくり。	7月、8月各5日間計10日
今日は1日ケアケアプラザ「夏休み子ども編」	自由遊びの時間—手作りパンと冷たいスープやアガーを使ったトマトゼリーでのランチ会。歯科医師の健口の話と講師の趣味でプロ級のバグパイプの演奏を聴く。間に「読み聞かせ」と「人形劇」もあり。	8月に1回
今日は1日ケアケアプラザ「冬休み多世代編」	読み語りやオカリナサークルの演奏と音楽療法、手作りケーキでの茶話会、ビンゴゲームなど	12月に1回

平成28年度 地域ケアプラザ収支予算書

施設名: さつきが丘地域ケア

平成28年4月1日～平成29年3月31日
(単位: 千円)

	科目	地域活動交流	地域包括支援センター			居宅介護支援	通所介護	予防通所介護	生活支援
			包括的支援	介護予防事業	介護予防支援				
収入	指定管理料等収入	14,190	23,336	151					5,789
	介護保険収入				5,031	23,885	93,579	5,259	
	その他	0	0	0	216	240	1,250	0	0
	予防プラン委託料								
	認知調査料								
	雑収入等				216	240	1,250		
	収入合計(A)	14,190	23,336	151	5,247	24,125	94,829	5,259	5,789
支出	人件費	8,354	18,780		1,100	17,580	50,987		5,480
	事務費	2,176	2,356		2,000	2,036	11,789		
	事業費	250	200	151		360	10,461		309
	管理費	7,000	2,000						
	その他	-3,590	0	0	0	0	0	0	0
	施設使用料相当額	-3,990							
	消費税	668							
	GND事業光熱水費控除額	-268							
支出合計(B)	14,190	23,336	151	3,100	19,976	73,237	0	5,789	
収支 (A) - (B)	0	0	0	2,147	4,149	21,592	5,259	0	

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同様に記載をしてください。

※ 指定管理料提案額(委託料)をベースに作成してください。